

2. シンプルTシャツ

<作品の説明>

基本的な形のTシャツです。

衿はリブ付け、袖口と裾はカバーステッチで既製品と同じように仕上げます。

<習得できるロックミシンのテクニック>

バルキー押えとウーリースピンテープの使い方

衿のリブ付けの仕方

カバーステッチの仕方

<使用するミシン>

2本針4本糸のロックミシン(糸取物語シリーズ・衣縫人シリーズ)と
ふらっとろくく(カバーステッチ専用機)

縫工房(1台で縫製可能です)

※ふらっとろくく、縫工房をお持ちでない方はリブ付け、屏風たたみ縫い、ニット用裾まつり押え、ウェーブロック、直線ミシンで始末して下さい。

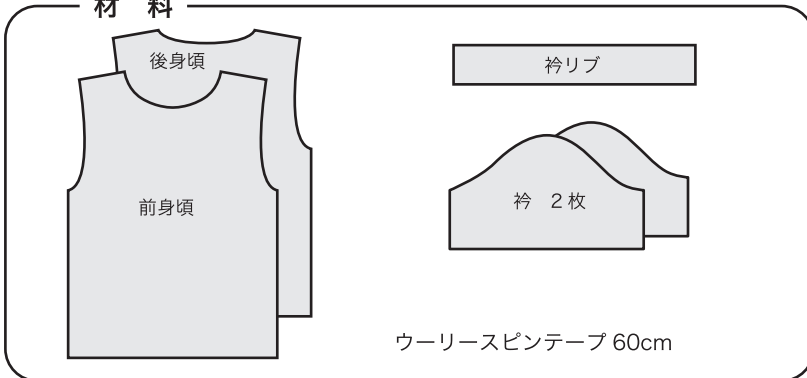
屏風たたみ縫いでの作り方はこちらを参考にして下さい。

http://www.babylock.co.jp/works/handmade/pdf/bl_recipe_technique01.pdf

<使うアクセサリー(押え金等)や洋裁道具>

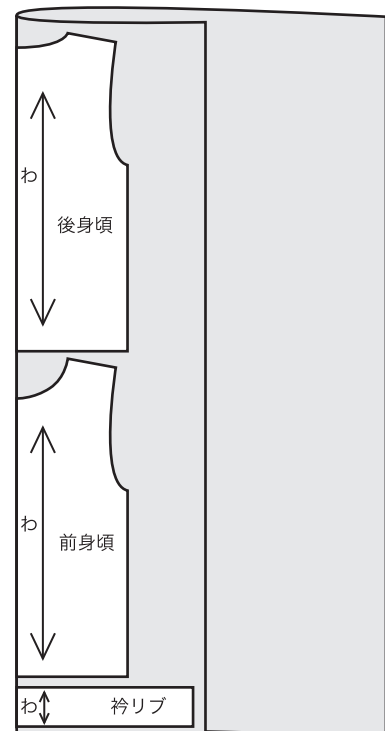
バルキー押え

材料



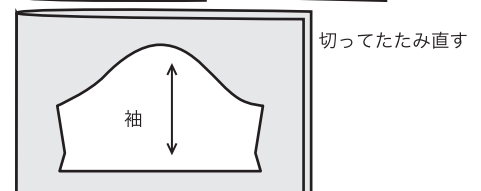
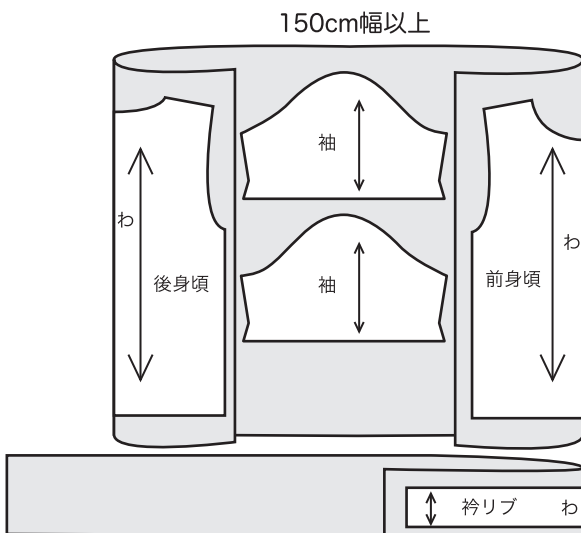
用尺：ニット生地 150cm 幅以上 0.7m
(半袖) 150cm 幅未満 1m

150cm幅以下



裁断図

♀はノッチ(合印)のマークです。
忘れずに印をつけましょう。



作り方

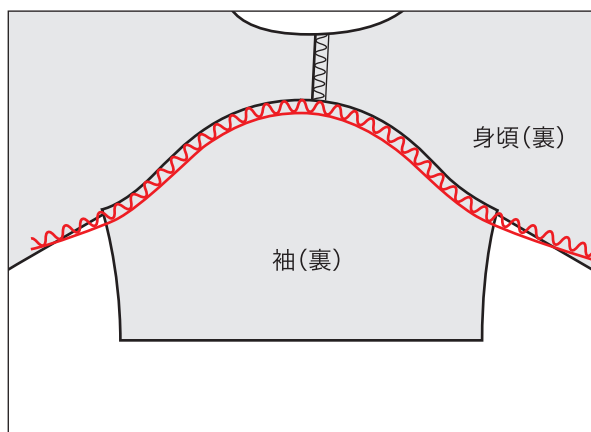
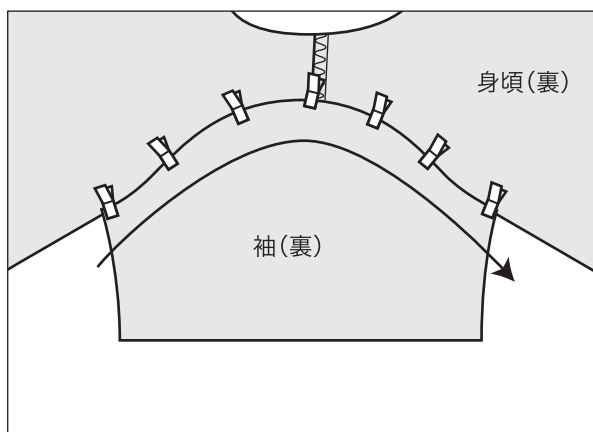
【肩の縫い合わせ】

- ①肩線で前身頃と後身頃を中表に合わせ、クリップでとめます。バルキー押えを用意し、ウーリースピントープを通してミシンに取り付けます。前身頃を上にして左肩から縫い合わせます。左肩が縫えたら糸を切らずにウーリースピントープだけを5cmくらい縫って右肩も続けて縫います。
- ②ハサミで肩の間の空環とウーリースピントープを切ります。縫い代は後身頃側に倒します。



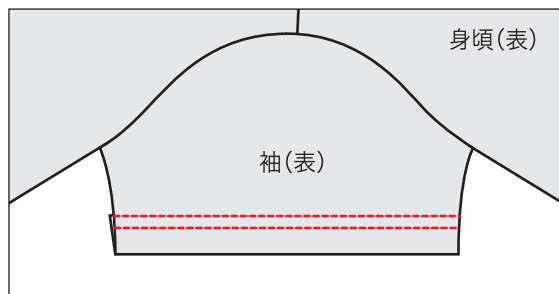
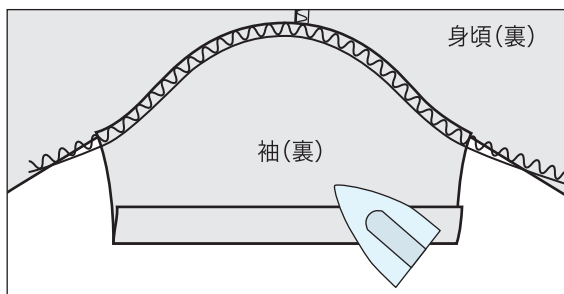
【袖を付ける】

- ①袖と身頃を中表に合わせ、クリップでとめます。
- ②差動を【1.3または1.5】にし、袖を上にして縫い合わせます。



【袖口の始末】※初心者・長袖の袖口の場合

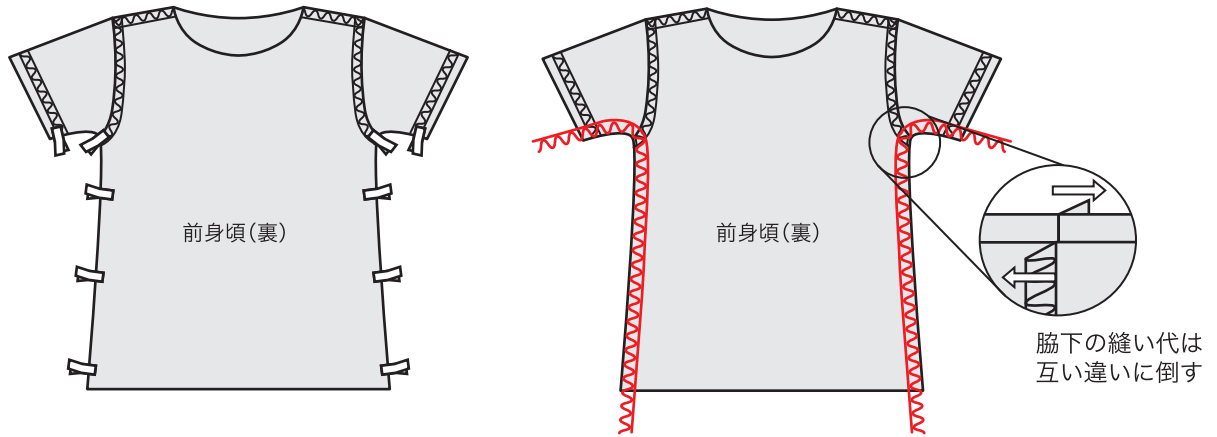
- ①袖口を縫い代分2.5cm アイロンで折り上げます。
- ②ふらっとろっくで表を上にしてカバーステッチをかけます。



※ふらっとろっくに慣れていない方はアイロンで縫い代を折り上げてから、【袖下と脇の縫い合わせ】をします。その後、【裾の始末】と同じように袖口にカバーステッチをかけます。

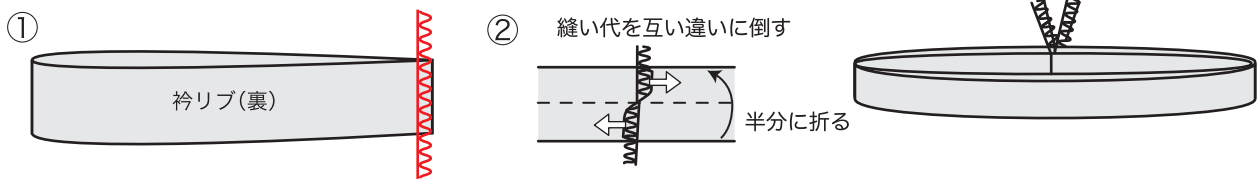
【袖下と脇の縫い合わせ】

①袖下と脇下を中表に合わせ、クリップでとめます。前身頃を上にして縫い合わせます。脇の縫い代は互い違いに倒します。



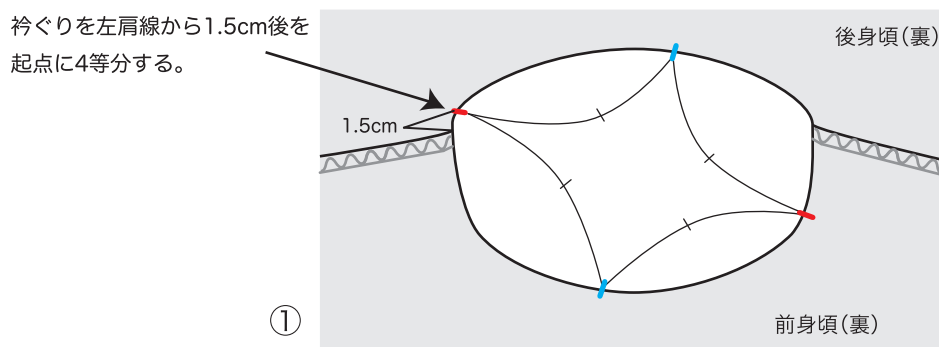
【リブを作る】

①衿リブを中表に合わせ、輪に縫い合わせます。
 ②二つ折りにします。縫い代は図のように互い違いに倒します。

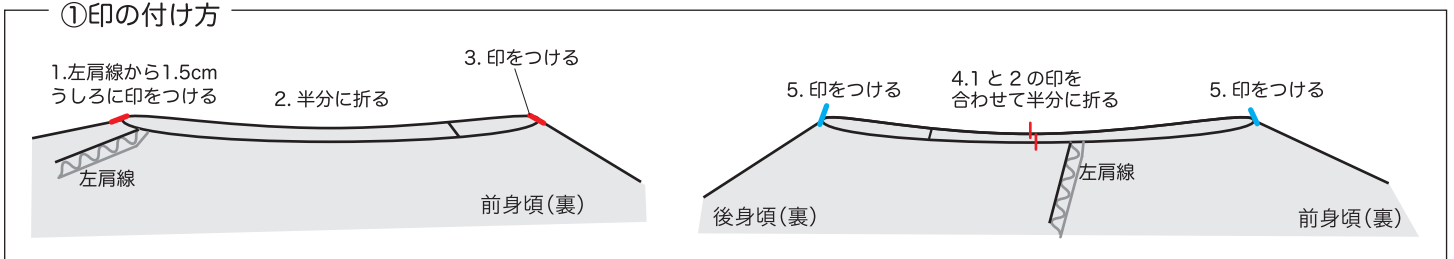


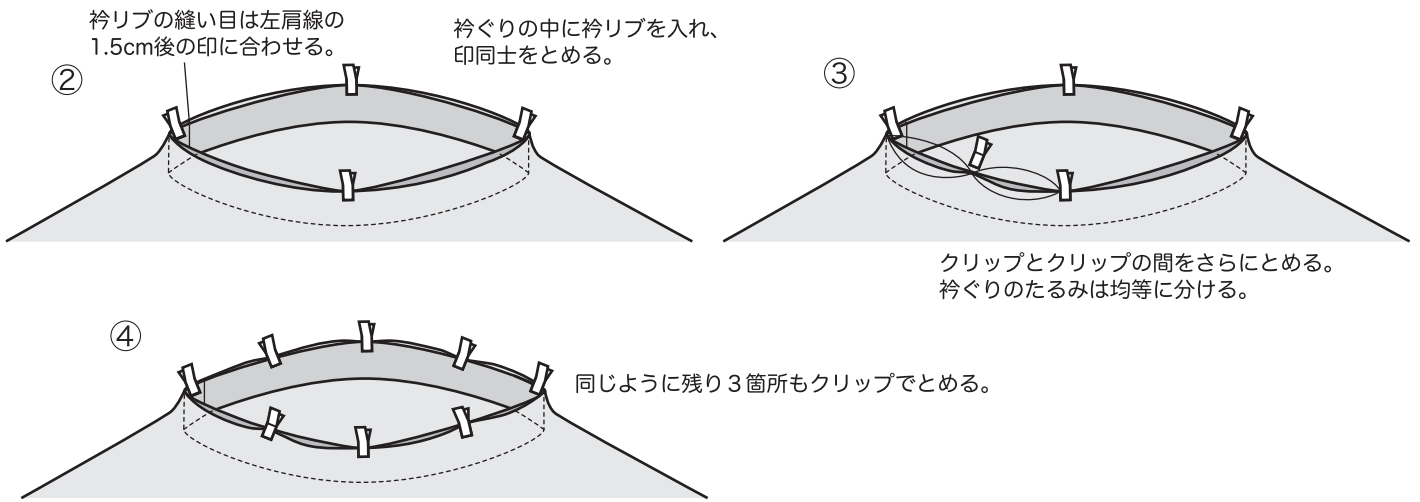
【リブを縫い付ける】

①身頃の左肩線から1.5cmうしろを基準に衿ぐりを4等分して印をつけます。
 ②衿ぐりに衿リブを入れます。リブの縫い目は身頃の左肩線うしろの印に合わせてます。
 ③リブの合印を身頃の印に合わせてクリップでとめます。
 ④それぞれの間もクリップでとめます。このときリブのほうが寸法が短いので身頃の余り分量を同じ位にしてとめます。

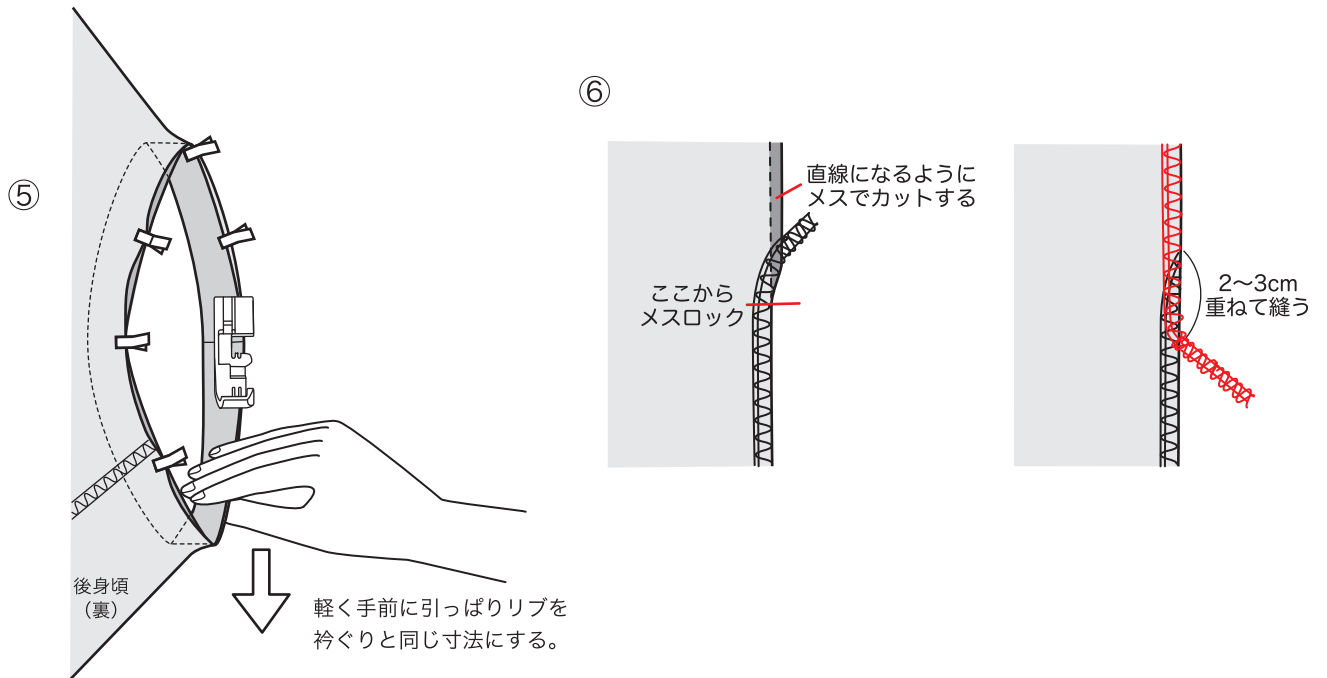


①印の付け方



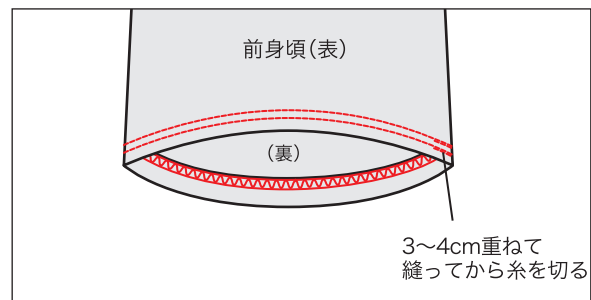
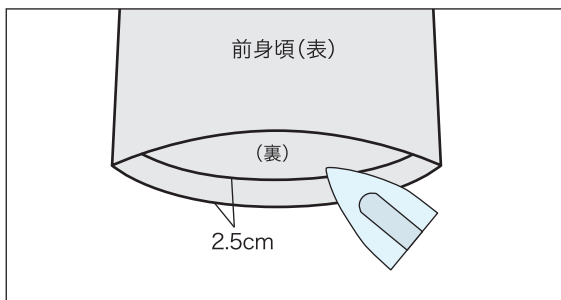


- ⑤ 差動を【1.3または1.5】にし、リブを上にしてリブの縫い目の2cm奥から斜めに生地を入れて縫い始め、衿リブを少し伸ばして衿ぐりの長さに合わせながら1周縫います。
- ⑥ 縫い終わりは縫い始めの空環をカットしたらメスをロックして縫い目を2~3cm重ねて縫います。押えの先を少し上げ、生地を左に90度よけます。空環を作り、糸を切ります。



【裾の始末】

- ① 裾を縫い代分2.5cmアイロンで折り上げます。
- ② ふらっとろっくで表を上にしてカバーステッチをかけます。1周縫い終わったら縫い始めと3~4cm重ねて縫ってから糸を切ります。



<アレンジ例>

袖を長袖(型紙あり)、7分袖にアレンジ可能。
裾を伸ばしてチュニックやワンピースにもできます。